

## 令和5年度第1回神戸市発達障害児（者）支援地域協議会代表者会 議事要旨

日時：令和5年6月28日（水）18時～19時40分

場所：中央区文化センター11階 1103・1104 会議室

### 1. 議題

- (1) 発達障害児者支援事業について
- (2) 次期神戸市障害者福祉計画について
- (3) 発達障害児者支援にかかる計画（案）について

### 2. 主な意見

#### (1) 発達障害者支援事業について

- ・文部科学省が初めて高等学校に在籍している子どもの2.2%に発達課題があるというデータを公表したが、神戸市はどの程度か教えてほしい。
- ・文部科学省は、今年からギフテッドの子どもたちに対して調査するように言っているが、神戸市はどのように考えているのか。
- ・早期に診察や検査を受けられるよう専門チームをつくるという対応は非常に有難いが、検査後のフォローが必要な子どもたちも増えるということである。その受け皿についても考えてほしい。
- ・発達に関する相談ができるということで診療所を紹介されるが、よく話を聞くと子どもの発達の相談だけでなく、家庭への支援や児童福祉的なサポートが必要だと思われる家族がいる。地域の医療機関を紹介するのは当然であるが、医療機関から福祉的な支援へつなげるのは難しいところがあるので、最初の健診の段階で子どもの発達レベルだけでなく、家庭そのものの状況や必要な支援について、見極められる体制を考えてほしい。
- ・公立幼稚園に発達課題のある児童が増えており、集団生活を保つことや就学に向けての支援が難しくなっているという現場の声も聞くが、この園をどうフォローしていくか。また、療育の必要な子どもたちが、どんな場所であれば安定して過ごすことができるかということも、これからの課題だと思う。
- ・特別支援教育相談センターの就学相談がスタートし、保護者にとって見通しが立ちやすくなったという感想を聞く。相談件数も増えているとのことだが、特別支援教育相談センターの充実を図ることが、子どもにとってもそうだが保護者の安定にもつながるので、今後力を入れてほしい。

#### (3) 発達障害児者支援にかかる計画（案）について

- ・セルフプラン率を下げるということは以前から言われているが、療育機関が多く何を選択していいかわからない、受給者証を取るにはどうすればいいかわからないという問題がセルフプランにつながっていると思うので、療育機関へのコーディネーションをどうするのか、目的・目標の立て方を工夫しないと、ほかの問題にもつながってくるのではないかと感じている。

- ・そもそもなぜセルフプラン率が下がらないのかというところをどう解決するのか。療育機関の情報、受給者証を申請するときの問題など、支援の必要な方に全体像が伝わっていないことや、次の見通しが立ちにくいということも含めて考えていけないと感じた。
- ・親がいない子どもたち、親に育てられていない子どもたちにも発達障害の方が増えている。児童福祉法の改正で、社会的養護について国も検討しているが、この場でもぜひ考えてもらえたらと思う。
- ・診断のつかなかった親へのサポートという内容はとても効果的だと思う。グレーゾーンや子どもが小さく診断がつかないことで、家族が困っているケースも増えていると聞くので、診断がついていない家族への支援が明記されたのはとてもいいと思うし、大人も同じだと思う。今、大学生の支援をしているが、大学生になると就労という壁にぶつかり、初めて障害について考えないといけない状況になる。そこで診断がついていれば福祉サービスの選択肢があるが、診断がついていない場合、修学もうまくいかず就労ではもっとつまずいてしまう。グレーゾーンの方をどうしていくかということもこれからの計画には入れておくべきかと思う。
- ・（提言に関する）5本の柱が決まっているのであればこれでいいが、2番目の「個人に関する情報を関係機関が共有するための仕組みづくり」に「個人情報に留意しながら」を入れるとか、5番目の「発達障害に対する理解の促進」を「発達障害に対する合理的配慮も含めた理解の促進」にするとか、タイトルを毎年変えることができるのであれば入れてもいいかと思う。
- ・ペアレントメンターについて、新しい方が入りやすい、また増やすような仕組みがあってもいいかと思う。
- ・医療機関の ICT について、医療機関で把握している病歴や病状などを管理する簡単な形のようなものを、発達専門医の先生方の意見もいただきながら、将来 ICT を導入したときに必要な情報が出せるような仕組みを考えてもいいかと思う。
- ・ハローワークの話にもあったが、就労の前段階の方が多く、就労のトレーニングはハードルが高い方も多いと聞いたので、ヒュッゲとも重なるがハードルが低く、個人で少し参加できるような、個人に寄り添った仕組みがあればいいと思う。
- ・発達障害児者支援の連携の強化による切れ目のない支援の中に、支援強化について書いてあるが、ずっと強度行動障害の方が気になっている。彼らは生まれつき強度行動障害というわけではなく、だんだん強度行動障害が形として出てしまうが、そこに対する支援をどうしていくのか。行政が施策として考えていかないと、大きな問題になっていると思う。精神科病院と施設の連携についても、どこかに触れておきたいと思うので、また考えていただきたい。

（閉会後に事務局に寄せられた追加意見）

- ・就労してからの支援を強化するため、高校、大学のみならず、専門学校等の就労・取得を目指す教育機関との連携が必要ではないかと思う。

- ・発達相談においては夫婦間でパートナーに対する相談が相当数あり、場合によってはDVと重なった相談もある。家庭という支援機関との連携の取りにくい環境下で、いかに支援に繋げるかは、困難かつ重要な課題であると考え。以前実施されていた「パートナーとのコミュニケーション講座」のような場の確保と啓発が重要と思う。
- ・特に乳幼児から学童期についての計画に関わる部分について、なぜセルフプランが多いのか、適切な支援が個々に応じてコーディネートされる場の必要性などを、計画に入れていただければと思う。
- ・保護者も多くの問題・課題を感じているところであるが、幼稚園、保育所、学童保育、学校現場も支援を補えるような、連携がより必要となっていると感じているため、セルフプランではないメリットを理解してもらえようような取り組みが期待される。
- ・福祉サービスになじまない子どもたち（児童・学生）は、計画相談を使わないため、枠から外れてしまう。有料の療育機関を利用しようとしても、高額のため負担ができない場合や、問い合わせをしても発達段階が違くと断られることもある。
- ・本人は認知の問題から言われたことを間違えて受け取り、トラブルになることも多い。ひどくなる前に、本人への適切な対応などを、定期的に学習・相談できるところがほしい。継続的に関わってくれる専門機関があると安心である。
- ・発達相談から漏れるグレーゾーンの子どもから大人まで、ここなら相談が受けられると分かるような記載が必要だと思う。ヒュッゲの感想にも「グレーゾーンの会はないか」と記載があった。未診断の方でも継続的に相談をお受けできると伝えたが通じなかった。
- ・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスなどをブロックで分けて、行政、基幹相談、発達障害者窓口担当、親の会、自立支援協議会などの構成メンバーとともに担当者会を開催し、情報交換や情報共有を行うというのはどうか。